

栃木県埋蔵文化財 センターだより

C O N T E N T S

発行 平成26年12月〇〇日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2014
12月
やま
かいど



- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
西高椅遺跡(小山市) 佐川南野上遺跡(野木町)
堀米城跡(佐野市)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から
行基平山頂古墳(足利市) 西刑部西原遺跡(宇都宮市)

- 埋蔵文化財センター普及事業
職場体験 黒袴台遺跡現地説明会
- 勾玉を作る
- 県庁展示から

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から

1. ^{にしたかはし}西高椅遺跡(小山市) -横穴式石室を持つ古墳時代後期の円墳-

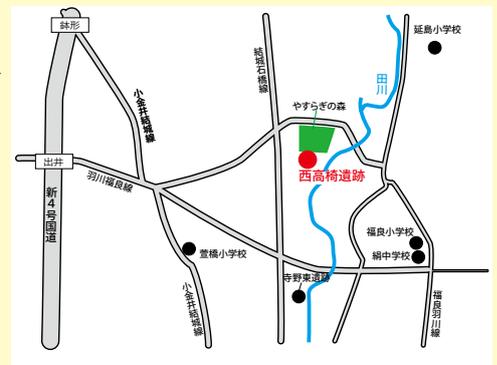
田川の西側の河岸段丘上の、小山市高椅に所在します。小山市から委託を受けて、埋蔵文化財センターが調査を行っています。平成25年度は古墳時代中期(今から1,550年前ころ)の古墳を18基調査しました。平成26年度は、現在までに円墳14基を調査しています。8月31日に現地説明会を開催し、古墳や埋葬施設を多くの皆様に見学していただきました。

今年度の調査では、これまでに数多く見つかっていた古墳時代中期の古墳に加えて、古墳時代後期(今から1,400年前ころ)の古墳を確認しました。ここで紹介する56号墳も後期古墳で、墳丘の直径が9.0m

の小さな円墳です。すぐ南側(写真の手前)にある古墳時代中期の竪穴式石室を避けて造ったように見えます。すぐ北側にも、周溝(ほり)を接するような近い位置に、2基の後期古墳があります。

56号墳の石室は、河原にあるような丸い石を積み重ねて、両側の壁を曲面にした形で、「胴張形」と呼ばれるものです。もとは写真の左手側にあったと推定される入口から、一段下へ降りて入る構造の横穴式石室で、長さ2.6m、幅90cmの大きさです。

西高椅遺跡では、古墳時代中期の古墳や石室の間に、割り込むように後期古墳が作られています。中期古墳に比べると、後期古墳は周溝(ほり)の幅が狭くて浅く、先に造られていた古墳を避けるために周溝の形を変形している事例が目立ちます。以前に築かれた古墳に遠慮しながら割り込んででも、この場所に古墳を造りたい—という、昔の人々の意志を感じます。



西高椅遺跡の位置



56号墳、SZ-59 全景(南から)



56号墳主体部全景

2. 佐川野上遺跡・南飯田前畑遺跡（野木町）-中世に墓域-

佐川野上遺跡・南飯田前畑遺跡はJR間々田駅から南西へ約3kmに位置し、宮戸川東岸の台地上にあります。この調査は圃場整備事業に伴うもので、今年度は南北約2kmの区間で5箇所を調査を実施しました。この中でも佐川野上遺跡②地点では土坑122基、溝13本、井戸跡8基、地下式坑22基、竪穴住居跡2軒が検出されました。遺構の年代は縄文時代、古墳時代、中近世と多岐に渡りますが、特徴的なのは地下式坑、井戸、土坑墓など中世の遺構が多く検出されたことです。また、土坑墓付近の溝では板碑の破片が出土しており、その一つには「文明十」と彫られていました。これが年号を示すのであれば遺構の年代を知る大きな手がかりとなります。このような埋葬に関連する遺物や遺構の状況から、この場所は中世において墓域として利用された可能性が考えられます。



佐川野上遺跡の位置



まとめて検出された地下式坑



「文明十」と彫られた板碑片

3. 堀米城跡（佐野市）-堀跡を発見-

堀米城跡は佐野市堀米町の佐野市立城北小学校東側に所在します。一般県道堀米停車場線道路改良工事に伴い、平成26年6月2日から同年7月30日まで発掘調査を実施しました。調査範囲は拡幅部分に限定されているため、細長く幅の狭いものでしたが、中世の遺構と遺物が見つかりました。堀米城は鎌倉時代の平城といわれています。

後の開発による影響で削られているため本来の深さは不明ですが、幅約3m、深さ約1.5mの堀跡が検出されました。主軸を北北東に向いています。堀米城の位置については小学校の北側と推測されており、今回の調査で発見された堀跡は堀米城の推測範囲よりもやや南東の場所にありますが、関係あるものとみえています。また、周辺の古い道や住宅の一部はこの堀跡と同じ方向を向いており、現在に至るまで昔の区画が生き続けていることが分かります。



堀米城跡の位置



作業風景



堀跡

市町教育委員会が実施した発掘調査から

4. 行基平山頂古墳（足利市）-6世紀初頭の形象埴輪群を確認-

行基平山頂古墳は、足利市中心市街地北西に位置する織姫山の行基平と呼ばれる小高い丘陵の頂を占める前方後円墳で、昭和53年に足利市の史跡に指定されています。織姫山から両崖山にかけての尾根上または斜面には26基の古墳が分布し、機神山古墳群（古墳時代後期群集墳）と呼ばれ、機神山山頂古墳（全長36m以上、市指定史跡）など本古墳を含め3基の前方後円墳が存在します。



行基平山頂古墳の位置

行基平山頂古墳は、これまで2回の測量調査が実施され、全長約39mの前方後円墳とされてきましたが、未発掘であったことから古墳の正確な規模・形状を確認するための発掘調査を平成24年度から実施しており、今年度は古墳東側のくびれ部および前方部確認のためのトレンチ調査を行いました。

その結果、本古墳は丘陵の自然地形を活かして構築されており、中段のテラス面に埴輪列がまわる、2段築成の前方後円墳で、2段目の全長が約43mであることがわかりました。その内前方部は長さ約15m、前端の推定幅約10m、高さ約3.3mで後円部に対して前方部がやや短く、あまり開かない形状です。古墳の築造時期は、古墳盛土下の旧表土上面に6世紀初頭に噴火した群馬県榛名山二ツ岳の火山灰が堆積していることから6世紀第1四半期（西暦501～525年）頃の築造と考えられます。



行基平山頂古墳（前方部側から）



形象埴輪出土状況（前方部側から）

特に大きな発見であったのは、前方部前端の外側から形象埴輪の基底部15基が4m四方の範囲でまとめて出土したことです。この埴輪群は前方部の南側に張り出したテラスの上面に据えられており、付近からは1000点以上の埴輪片が集中して出土しました。これまでの整理作業で、人物埴輪7基（女子6・男子1）、馬形埴輪2基、水鳥形埴輪2基、人面付円筒埴輪8基が確認されており、形象埴輪が群としてまとめて出土したのは足利市内では初めてです。また、県内でも類例のない、全長約13cmの冠を載せた男子小像が1点出土するなど、ミニチュアや小像の埴輪が多く出土していることが本古墳の特徴です。足利市教育委員会



人物埴輪出土状況（南西から）



冠を載せた男子小像

にしおさかべにしはら
5. 西刑部西原遺跡（宇都宮市） -古墳時代の住居移転に伴う祭祀の跡か？-

西刑部西原遺跡はインターパークの東端にあり、今回の調査区はその北西部にあたります。かつては西脇を無名瀬川が流れていました。約790㎡を調査した結果、古墳時代後期から奈良時代初め頃の竪穴住居跡が12軒確認されました。この中の1軒（SI-05）は、一辺6mの方形で北壁の中央にカマド、南壁の中央には外に張り出す貯蔵穴が設けられていました。カマドの周辺や貯蔵穴にはほぼ完全な形の土師器が多く残されていました。また、カマドの両脇からは粘板岩製の白玉が30点程まとまって出土しました。これらとともに、土玉や手鎌（穂摘具）なども出土しています。カマドの一部が破壊されていたことから、住居の移転に先立ってカマド神に対する祭祀を行った跡と考えられます。

(宇都宮市教育委員会 028-632-2764)



西刑部西原遺跡の位置



遺跡全景



白玉が出土したカマド

黒袴台遺跡発掘調査現地説明会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査中の遺跡を、周辺に住む方や考古学や歴史に興味を持つ方に、見学してもらうため、現地説明会を実施しています。考古学専門職員が、発見された住居跡などの施設や発掘調査の手順をわかりやすく説明します。

平成26年6月8日（日）に、佐野市黒袴町の黒袴台遺跡で現地説明会を行いました。当日は雨の中、120の方が参加されました。黒袴台遺跡は、平成25年から調査を行い、縄文時代のムラの跡、古墳、古墳時代のムラ、平安時代のムラ、室町時代の墓地が発見されました。な家柄に数えられました。



竪穴建物跡

四角く掘り窪め、床に4本の柱の跡があることを説明しました。有機質の柱材や屋根材は残っていませんでした。



石室の様子

古墳の埋葬施設である横穴式石室が、比較的原形を留めた形で発見されました。遺跡周辺の山地にあるチャートと呼ばれる石材を用いて石の部屋が作られます。一抱えもある大きな石を壁とし、床には小さな石を敷いていました。天井部分は残っていませんでした。

埋蔵文化財センター普及事業の紹介

発掘現場での職場体験



職場体験を始める前に、担当職員から遺跡の概要、発掘調査の方法の説明を受けます。



石室の調査を体験します。川原石で作られた石室の全体像を把握するため、石を残しながら周囲の土を掘り下げました。



古墳から出土した土器や埴輪の破片の水洗いも体験しました。

埋蔵文化財センターでは、主に中学生や高校生の職場体験を受け入れています。

平成26年度は、室内での整理作業と発掘現場で、〇校〇人の生徒が体験を行いました。ここでは、小山市西高橋遺跡での職場体験を紹介します。



石室の調査を見学しました。



写真撮影の準備です。土をきれいに取り除き、木の根なども取り除きます。

一通り仕事を覚えることも大切ですが、最も重要なことは、他人と協力して作業を進めることです。

年齢の離れた大人の作業員さんとの共同作業も貴重な経験となるでしょう。

特集 勾玉を作る

勾玉は、縄文時代から作られ、古墳時代に流行します。翡翠や瑪瑙など、硬く美しい石材が用いられます。日本独特の形で、穴に紐を通して吊り下げました。多くが古墳から発見されるため、単なる首飾りではなく、高い身分を表すものや儀式に用いるものと考えられます。

古墳時代の勾玉作り

古墳時代のムラを発掘調査すると、勾玉を作った工房跡が発見されることがあります。勾玉を製作する道具や作りかけの勾玉がまとまって出土し、当時の勾玉作りの手順を知ることができます。真岡市市ノ塚遺跡から工房跡が発見されました。

栃木県内で出土する勾玉には、瑪瑙製のものが多く見られます。瑪瑙は、栃木・茨城の県境に連なる八溝山地で産出します。なかでも良質なものが採れる茨城県常陸大宮市の玉川は、瑪瑙原石産地の有力な候補地です。



現在の玉川
奈良時代の書物『常陸風土記』（常陸は現在の茨城県）には、玉が出る川「玉川」が記されています。

1. 瑪瑙原石



2. 原石を荒割りし直方体とする



3. 抉りを入れる



4. 鉄の錐で穴をあける



5. 荒砥で磨く



6. 仕上げ砥で磨く

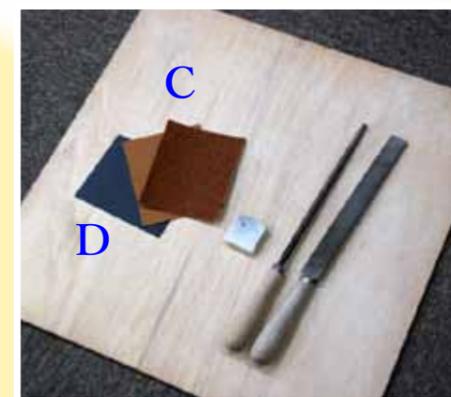


7. 勾玉完成

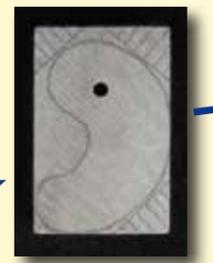
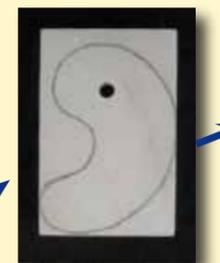


埋蔵文化財センターの勾玉作り

多くの人に、勾玉作りを体験していただこうと考えていますが、古墳時代同様の硬い石材を用い、同じ方法で作成するには、技術を覚え、完成するまでに何日もかかります。そこで、柔らかい滑石を材料とし、石を割る代わりに鉄のヤスリ、砥石の代わりに紙ヤスリを用い、古墳時代の勾玉作りの雰囲気味わっていただきます。



埋蔵文化財センターで使用する勾玉作りの石材には、既に穴が開いています。



C 茶色の紙ヤスリ
古墳時代の5の荒砥(砥石)の役割をする
D 灰色の紙ヤスリ(耐水ペーパー)
古墳時代の6の仕上げ砥(砥石)の役割をする



■県庁展示 一煮炊きの道具の移り変わり■

県庁を訪れる一般県民に、発掘調査から分かった栃木県の歴史を身近に感じていただくため、毎年テーマを決め、栃木県庁本館2階ガラスショーケースに、出土品を展示しています。今年、「煮炊きの道具の移り変わり」を取り上げました。

日本列島では、約 16,000 年前に 縄文土器が出現し、煮炊きの道具が表れます。

縄文土器の深鉢、弥生土器の甕、古墳時代の土師器甕、中世の内耳土器と時代順に煮沸具を並べました。深鉢の多くは上半部にススが付いています。

展示資料

縄文時代

- 野沢遺跡出土 草創期縄文土器（破片）
- 中島笹塚遺跡出土 早期縄文土器（深鉢）
- 三輪仲町遺跡出土 中期縄文土器（深鉢）
- 荻ノ平遺跡出土 後期縄文土器（深鉢）

弥生時代

- 磯岡遺跡出土 弥生土器（甕）

古墳時代

- 間々田六本木遺跡 土師器（台付甕）
- 清六川遺跡出土 土師器（甕・甑）

中世

- 中之内遺跡出土 内耳土器



縄文土器（三輪仲町遺跡）



弥生土器（磯岡遺跡）



内耳土器（中之内遺跡）

「これって本物ですか。」という質問が最も多く聞かれました。

埋蔵文化財センターでは、県庁展示のようにセンター以外の場所でも展示を行っております。依頼内容に応じて（たとえばテーマを決めた展示では縄文土器や狩猟用具等、また地域に関連した展示ではその地域の遺跡や出土資料等）展示をします。もちろん、内容に合わせた講座も開催できます。公民館や地域の自治会館でも開催例があります。まずはご連絡下さい。

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及資料課まで TEL 0285-44-8441